

発表タイトル	ガダモッジ儀礼-エチオピア南部牧畜民ボラナにおける通過儀礼
発表者所属名	文化科学研究科 地域文化学専攻
発表者氏名	大場 千景

発表内容

本発表では、ボラナ社会で実践されている通過儀礼の一つであるガダモッジ儀礼を撮影した映像を上映する。ここでは、映像をよりよく理解して頂くために、ガダモッジ儀礼の背景となっているボラナの社会制度について若干の説明を加えたい。

エチオピア南部に広がるサバンナ地帯には、牧畜を営むボラナと呼ばれる人々が居住している。19世紀末、エチオピア帝国に征服される以前は、ガダと呼ばれる世代階梯制度を中心に自律した社会を形成してきた。世代階梯制とは、世代によって社会の成員を区分して年長順に序列をつける社会制度である。ボラナの世代は全部で8つの階梯に分けられている。第1の階梯であるダッバレ階梯(*daballee*, 0-8歳)は8年、第2階梯であるガンメ階梯(*gammee*, 8-24歳)は16年、第3階梯であるクーサ階梯(*kuusa*, 24-32歳)は8年、第4階梯であるラーバ階梯(*raaba*, 32-36歳)は4年、第5階梯であるドーリ階梯(*doorii*, 36-40歳)は4年、第6階梯であるガダ階梯(*gadaa*, 40-48歳)は8年、第7階梯であるユーバ階梯(*yuuba*, 48-82歳)は34年である。第8階梯のガダモッジ階梯(*gadaammojji*, 82歳-83歳)は1年である。階梯から階梯へと移行する際、通過儀礼がおこなわれる。

ボラナの世代階梯制度と付随する通過儀礼は、すでに仕組まれている人生のプログラムのようなものとして考えてみる事ができる。男児は、第1階梯から第2階梯へ移行する際、頭の一部の髪を剃り、名前が与えられる命名儀礼を行う。第2階梯から第3階梯へ移行する際、次世代の政治や儀礼の執行に責任をもつ役職者たちが選出され、役職者集団が形成される。第4階梯に到達すると、婚姻を可能とする通過儀礼がおこなわれ、第5階梯に到達すると、子供の養育を可能とする通過儀礼が行われる。第6階梯は、ボラナ社会全体の政治と儀礼に責任をもつ階梯であり、前任者からの権力の移行儀礼が行われる。それと同時にそれまで第6階梯に所属していた世代組は引退し、第7階梯に属しながら若い世代の後見役となる。第8階梯へと到達した世代組は、最終通過儀礼であるガダモッジ儀礼を終えると、男性たちは、戦いや狩りに出かけることができなくなり、いわば隠居の身となる。

ガダモッジ儀礼

8	ガダモッジ階梯	1年	
7	ユーバ階梯	34年	オダの儀礼(ガダの役職者引退・ヤーの村の解散)
6	ガダ階梯	8年	政治と儀礼に責任をもつ階梯 コルマ・プテの儀礼 バツリの交換儀礼(ガダの父の立位)
5	ドーリ階梯	4年	バカラ・ファツジの儀礼 ダンニサの儀礼(子供養育許可儀礼)
4	ラーバ階梯	4年	ドキス儀礼(婚姻許可儀礼)
3	クーサ階梯	8年	ガルマ・カラチャの儀礼 ゴディーヤ儀礼(6人の役職者の選出)
2	ガンメ階梯	16年	ワル・アルギ(wal-argii)の儀礼 ニヤーチサ(nyaachissa)の儀礼
1	ダッバレ階梯	8年	命名の儀礼

本発表では、2011年7月から8月にかけて行われた最終通過儀礼であるガダモッジ儀礼の一部始終を撮影した映像をもとに、ガダモッジ儀礼とはいかなるものであるのかを描写する。この儀礼がもつ、社会的宗教的な意味を当事者の視点によりそって儀礼をみていくことで明らかにしていきたい。